

国道57号 土砂流入

・熊本県宇城市三角において、8月10日の大雨により、土砂流入が発生。それに伴い落石防護柵の端部支柱が変形している。今後の対応策検討の為、TEC-FORCEアドバイザーに現地診断をしていただき、意見を伺った。

参加者:熊本大学 ^{きたぞの}北園名誉教授、^{むくのき}椋木教授、熊本河川国道事務所

● TEC-FORCEアドバイザーによる現地診断(令和7年11月7日)



【TEC-FORCEアドバイザーの見解】

- ・崩壊斜面近辺をみると、苔が生えており湧水があると思われるため、再調査を行い対策の可否を行う必要がある
- ・落石防護柵は、旧基準による設置であり、経年により老朽化が進み斜面崩壊の際に変形等が生じたと考えられる。防護柵がなされていない部分も含め、防食処理を行った防護柵を新設し、今後の腐食の進行については記録にとどめておく必要がある

国道57号 土砂流入

・熊本県宇城市三角において、8月10日の大雨により、土砂流入が発生。仮復旧として大型土嚢を設置し、斜面崩壊対策としている。今後の対応策検討の為、TEC-FORCEアドバイザーに現地診断をしていただき、意見を伺った。

参加者: 熊本大学 ^{きたぞの}北園名誉教授、^{むくのき}椋木教授、熊本河川国道事務所

● TEC-FORCEアドバイザーによる現地診断(令和7年11月7日)



【TEC-FORCEアドバイザーの見解】

- ・待ち受け式擁壁の施工を主とする対策方針は、有効であると考えます。対策の延長は、再度崩壊が生じた場合においても受け止め可能な範囲とすること。
- ・崩壊の規模を想定し待ち受け式擁壁のポケットで対応できない場合は、斜面对策が必要になる場合も考えられる。

国道57号 土砂流入

・熊本県宇城市三角において、8月10日の大雨により、土砂流入が発生。これに伴い、既設の落石防護網(ポケット式)が一部破損(網部欠損、アンカー抜け出し)した。
今後の対応策検討の為、TEC-FORCEアドバイザーに現地診断をしていただき、意見を伺った。

参加者: 熊本大学 きたぞの北園名誉教授、むくのき椋木教授、熊本河川国道事務所

● TEC-FORCEアドバイザーによる現地診断(令和7年11月7日)

被災状況



現地調査状況



会議・打合せ状況



北園名誉教授

椋木教授

【TEC-FORCEアドバイザーの見解】

- ・被災時に既設の防護網が破損しているが、これは機能を果たし被害を最小限に抑えた為であり、記録として残すべきである。
- ・今後は全ての斜面についてドローン等を利用して地形を断続的に記録し、地形の変化から崩壊の進行過程を見極めていくことが望ましい。また、対策は次の崩壊を引き起こすことにならない様に十分精査すること。